

第5問

以下の事実について、Xの罪責を論じなさい。

空手三段のXは、路上でA（男性）が泥酔しているB（女性）を介抱しているのを見て、「AがBを襲っている」と思い込んだ。Xは、「Bを助けるために、Aの頭に思いっきり回し蹴りをしよう。Aに大怪我をさせるかもしれないが、Bを助けるためなら許されるだろう。傷害罪には当たらないはずだ」と思い、力任せにAの頭部に回し蹴りをした。Aは、地面に頭部を打ちつけ、全治8か月の頭蓋骨骨折の重傷を負った。

どんな事実が存在すると
思っていたか

認識した事実：
傷害罪、過剰防衛

故意あり

違法と意識することは可能

責任阻却せず

発生した事実：
傷害罪、違法

自分の行為が違法だと意識することはできたか